

## 第10回 龍頭が滝案内

### 松笠と龍頭が滝、そして出雲神楽（その1）

毎年秋になると出雲地方では神楽（かぐら）が奉納されます。そこで今回は神楽を取り上げてみます。

出雲地域を中心に伝承されてきた神楽のことを「出雲神楽」といい、その特徴は、「七座」「式三番（しきさんば）」「神能」の三部構成になっていることです。

「七座」は、神楽の場を祓い清めるために、面をつけず、手に幣、呉座、鈴、扇子などの採物（とりもの）という道具を持って演じられる、儀式的な舞のことです。七つの演目から構成されるため、七座と呼ばれています。演目は地域によって異なるようですが、明治44（1911）年10月発行の島根県農会報に掲載されている農村娯楽調査によれば、飯石郡では七座の演目として、清め、呉座舞、八乙女、還城、手草、連れ手草、劔舞がありました。

「式三番」は、能楽の祝いの曲を神楽に取り入れたものといわれ、「翁」「千歳」「三番叟」の三つの演目からなります。このうち三番叟は、子供二人が化粧をして登場する歌舞伎式の舞になっていることが多いようです。

「神能」は、仮面をかぶり演じられる演劇のような舞のことで、神楽といえばこれを連想する方も多いのではないのでしょうか。演目としては、素戔鳴尊が八岐大蛇を退治し草薙剣を大蛇の尾から取り出す「八頭」（「八戸」「八重垣」などの名称も使われます）。征夷大將軍坂上田村麻呂が鬼を退治する物語「田村」。天竺から来襲した悪い神である「彦張」を日御碕の女神が弓矢で撃退する物語「日御碕」、など多数あります。「日御碕」は出雲神楽で最後に演じられることが多く、「夜明けの彦張」とも呼ばれているそうです。

この出雲神楽ですが、明治時代にはとても盛んだったようです。先ほどの農村娯楽調査に、こんな結果が載っています。飯石郡で素人神楽を実施している村 「一宮村 三刀屋村 飯石村 中野村 田井村 吉田村 掛合村 多根村 松笠村 東須佐村 西須佐村 波多村 志々村 頓原村 来島村 赤名村」。計16村です。この当時飯石郡には17村がありましたので、松笠村をはじめとして、飯石郡のほぼすべての村で、素人神楽が舞われていたことになります。

演目はわかりませんが、松笠村でも例大祭には、夜明けまで六調子の賑やかな笛、太鼓のお囃子、笑い声、歓声が響いていたことでしょうね。

次回は、龍頭が滝と出雲神楽です。

（参考文献）島根県立古代歴史博物館『企画展 出雲神楽』 2023年。島根県古代文化センター『中国地方各地の神楽比較研究』 2009年。

